

# 自然と科学なんでもニュース

No. 91 2012. 3. 24

銀山中学校  
神 貴 夫

## ‘善意の踏み絵’ と化する広域瓦礫受入問題！

### ～緊急措置の 8,000Bq/kg → 全国基準にすいかわる？～

‘瓦礫の広域処理’についてのニュースが多くなっている。細野大臣も街頭にまで飛び出して広域瓦礫処理への理解を求めることにご熱心だ。マスコミの報道振りも細野大臣の言動と歩調を合わせるかのように、「**すずまない震災瓦礫受入！**」といったタイトルの見出しが繰り返し出している。

瓦礫受入処理を拒むことはあたかも「非国民である」かのような嫌な空気が充滿している。「絆」という言葉をセツトにして、電力会社や原子力村の連中に向かうべき批判が巧妙にすり代えられてはいないか？

今、**政府がすすめている広域瓦礫処理の‘お願い行脚’は、自治体に対して‘善意の踏み絵’を迫りながら、巧みに世論を脱原発からどらし、脱原発運動を分断する周到に計算された心理作戦であると私は見ている。**

穿った見方だと思われるかもしれない。しかし、国家と名がつくものは必ず権力構造の安定を図るため、国民感情を操作するものだ。「原子力安全神話」がいい例だ。行政・企業・メディアが一体となって世論操作した結果、あり得ない妄信を多くの国民は信じたのだ。では、広域瓦礫処理問題に仕組まれた心理作戦の狙いはなんだろう？

その前にまず、阪神淡路大震災と東日本大震災で発生した瓦礫量を比較してみることにする。

#### 阪神大震災の瓦礫 ⇒ 2000万トン

アスベストを大量に含んでいたため、多くは地元で処理。地元以外の処理は神奈川、埼玉、福岡県の3県。神戸市は新規焼却場を15基増設して対応。半数近くの瓦礫は埋め立て造成による処分。

#### 東北大震災の瓦礫 ⇒ 2300万トン

放射能とアスベストを含んだ瓦礫。政府が全国の自治体に受入を要請。放射能濃度は 8,000Bq/kg までは埋め立て処分できる。

\*国際的基準では 100 Bq/kg を超える汚染物は、放射性廃棄物処分場で封じ込める必要がある...

都市部が集中的に崩壊した阪神淡路大震災では、狭いエリアで大量の瓦礫が発生した。一方、広域に被害が及んだ東日本大震災の瓦礫量の密度は遥かに低い。被災地域ごとに集中すれば十分な空き地が確保でき、港湾や堤防の再整備に活用すれば全国に拡散する必然的な理由はないように見える。

加えて重要なことは、東北や関東東地域にまで高濃度の放射能が降った事実を考えれば、濃度の差はあってもほとんどは放射能瓦礫に類するものだ。線量計で測定し、処理に問題はないことをアピールしているが、全ての核種を検査してはいない。多額な費用を掛けて、放射能で汚染された瓦礫を広域処理するメリットはどこにあるのか、私にはさっぱり見えてこない。

世論の中には「震災瓦礫」と「放射能瓦礫」を別だとする考え方があ。ストロンチウムをはじめとするα線核種の汚染データさえ公表されていない状態の中で、瓦礫を区別すること自体が無意味である。

放射能で汚染されていない「震災瓦礫」があたかも存在するかのような仕立ては、善意の心理を喚起するために意図的につくられた完全な演出である。

## 広域瓦礫処理の狙いはどこにあるのか？

### ① 復興財源をめぐる利権構造

一体、誰が儲かるのかを考えてみるのが重要だ。瓦礫を移動することで最も儲かるのは土建会社、運送会社であろう。復興予算が巨大な利権に群がるシロアリに食べつくされ、肝心の地元復興に生かされない可能性がある。被災地に高性能な焼却施設や港湾、堤防など建設したほうが遥かに復興につながるし、地元の雇用も発生するだろう。仙台市の歓楽街は今、大変な賑わいになっているそうだ。長らく不況に喘いでいた土木関係業者が全国から結集し、夜のスナックやバーでは札束が飛び交っているそうだ。土木利権が蠢いているのは確かだ。

### ② 脱原発運動の対立誘発

脱原発運動が瓦礫処理問題めぐって対立構造が表面化しているという。脱原発運動の広がりには原子力推進勢力側にとって今はまさに脅威の状況にある。何としてでも押さえ込みたいとあらん限りの権謀術策を思案しているだろ

う。組織や運動を弱体化させる最大の手法は、いつの時代も内部対立を生むように仕向けることだ。

広域瓦礫処理問題は、残念ながら脱原発を求める人々の間に価値観の溝を作り出すウィークポイントとして、効果的に機能している。復興支援・絆のために、瓦礫受入という‘善意’を巧みに仕掛けることで価値観の対立を作り出せば、反原発に立つ人々をイデオロギー集団として小さく囲い込むことができると計算している。

一時の被害感情で脱原発に傾いた多くの人々は、直近に差し迫った危機が続かなければ、時間経過の中で危機感には次第に薄れ、生活の豊かさを求めるようになる。また、精神的にも早く楽になりたくなるものだ。原則的な運動には次第についていけなくなり、そうした人々を特別視するようになっていく。

かつて日本中を席卷した‘反核運動’は原子力‘平和利用’の御旗の前に次第に内部対立が表面化し、弱体化していった歴史がある。そして多くの人々は経済的豊かさだけに関心を奪われていった。‘便利で豊かになること’に逆らうことは人間容易ではなのだ。気がつけば原子力村に、いのちと豊かな自然や故郷を人質に取られてしまっていた。

## 「震災瓦礫」受入に明確に反対した徳島県の言い分

ネットで情報を調べていたら、徳島県の見解が出ていたので紹介する。「60歳 男性」から寄せられたという

### 「徳島県の市民は、自分だけ良ければいいって言う人間ばかりなのか。声を大にして正義を叫ぶ人間はいないのか？ 情け無い！ 君たち東京を見習え！」

に対して答えたもの。

#### 【環境整備課からの回答】

徳島県や県内のいくつかの市町村は、協力できる部分は協力したいという思いで、国に対し協力する姿勢を表明しておりました。しかしながら、現行の法体制で想定していなかった放射能を帯びた震災がれきも発生していることから、その処理について、国においては1キロあたり8000ベクレルまでは全国において埋立処分できるといたしました。（なお、**徳島県においては、放射能を帯びた震災がれきは、国の責任で、国において処理すべきである**と政策提言しております。）

**放射性物質については、封じ込め、拡散させないことが原則**であり、その観点から、東日本大震災前は、IAEAの国際的な基準に基づき、放射性セシウム濃度が**1キロあたり100ベクレルを超える場合は、特別な管理下に置かれ、低レベル放射性廃棄物処分場に封じ込め**できました。（クリアランス制度）

ところが、**国においては、東日本大震災後、当初、福島県内限定の基準として出された8000ベクレル(従来の基準の80倍)を、その十分な説明も根拠の明示もないまま、広域処理の基準にも転用**いたしました。（したがって、**現在、原子力発電所の事業所内から出た廃棄物は、100ベクレルを超えれば、低レベル放射性廃棄物処分場で厳格に管理されている**のに、事業所の外では、8000ベクレルまで、東京都をはじめとする東日本では埋立処分されております）

ひとつ、お考えいただきたいのは、この**8000ベクレルという水準は国際的には低レベル放射性廃棄物として、厳格に管理されている**ということです。

例えばフランスやドイツでは、低レベル放射性廃棄物処分場は、国内に1カ所だけであり、しかも鉱山の跡地など、放射性セシウム等が水に溶出して外部にでないように、地下水と接触しないように、注意深く保管されています。

また、**群馬県伊勢崎市の処分場では1キロ当たり1800ベクレルという国の基準より、大幅に低い焼却灰を埋め立てていたにもかかわらず、大雨により放射性セシウムが水に溶け出し、排水基準を超えた**という報道がございました。県民の安心・安全を何より重視しなければならぬことから、一度、生活環境上に流出すれば、大きな影響のある放射性物質を含む瓦礫について、十分な検討もなく受け入れることは難しいと考えております。

地域を守るべき立場にある自治体として、極めて当然な姿勢である。異常なのは原発再稼働を画策する手段として、善意を演出する国の方なのだ。復興に名を借りた偽善であることを知る必要がある。